2022年1月12日

関 係 各 位

（一社）九州経済連合会

林業部会長　中島　豊

「九経連モクビル研究会（第2回）」の実施及び参加者募集について

謹啓　時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、12月24日に「第１回モクビル研究会」を開催し、木造ビルの早期実現に向けた活動をキックオフしました。引き続きまして、下記のとおり第２回目の研究会を開催し、さらにその輪を広げ進めてまいります。ご多用中と存じますが、木造ビル普及（建築物の木造木質化）をともに考えていただける方々のご参加を心よりお待ちいたしております。

謹白

記

１　開催日時　　2022年2月4日（金） 13時30分～17時20分

２　会 場 等　　九経連会議室（福岡市中央区渡辺通2-1-82 電気ビル共創館6F）

＋WEB参加（ZOOMにて）

３　参加対象　　「建築設計」「部材、建材」「企業内建築部門」に関係する方々

※九経連会員・林業部会メンバー、これまでご参加いただいた方々

（随時新規参加可能で、幅広い分野からのご参加をお待ちいたしております）

４　募集人員　　会場：30名、WEB：30名 程度〔先着順〕

５　参加費　　　無料

６　当日スケジュール（予定）

13:30～ 開会・挨拶

13:40～14:40 講演

　 NPO法人team Timberize（チームティンバライズ）

・理事（前理事長） 腰原 幹雄 氏（東京大学 生産技術研究所 教授）

・理事長 安井 昇 氏（桜設計集団一級建築士事務所　代表）

14:40～15:10 事例発表

・宮崎県建築士事務所協会　常任理事　岡﨑 誠二 氏（岡﨑設計 代表）

15:20～17:10 課題発表＆パネルディスカッション・意見交換

・各県 木造ビル構造標準モデル作成チーム代表等

17:10～17:20 まとめ・閉会

７　回答期限 **1月28日（金）迄…**別紙１参加回答書でご回答ください

８　その他 ・前回の議事は別紙２議事録を参照ください

・会場参加の方には、メンバー構成の理由でご参加の調整をいただく場合 がございます。

・会場参加の方は、マスク着用、検温・消毒にご協力ください。また、体 調不良の方は参加をご遠慮ください。

・第3回目の研究会は3月30日PM（時間調整中）に開催します。ご案内 は後日発送いたします。

以　上

【事務局】九州経済連合会 農林水産部 櫻木

（TEL）092-791-4268 （FAX）092-724-2102

（E-mail）ts\_sakuragi@kyukeiren.or.jp

別紙１

**「九経連 モクビル研究会」 参加回答書**

九州経済連合会 農林水産部　櫻木 宛

**（FAX）092－724－2102**

**（E-mail）ts\_sakuragi@kyukeiren.or.jp**

**【第2回 研究会】**

日時：2021年2月4日（金）　13：30～17：20

会場：①九経連 会議室 (福岡市中央区渡辺通2-1-82 「電気ビル共創館」6階)

　　　　　②WEB参加（ZOOM）

**社名・団体名**

**（お電話　　　　―　 　　―　 　　 　）**

**申込者：　　　　　　　　　　　　　　役職：**

**E-mail：**

上記、第1回研究会への参加を希望します（いずれかに〇を付けてください）。

　１　九経連会場　　　　　　２　ＷＥＢ（ZOOM）

【参加者 報告欄】

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| No | 氏　名 | 部署、役職 | e-mail（アドレス） |
| １ |  |  |  |
| ２ |  |  |  |
| ３ |  |  |  |
| ４ |  |  |  |

※事務局への連絡事項、質問がある場合はご記入ください。

**※回答期限：1月28日（金）**

別 紙 ２

九経連 林業部会

第１回　モクビル研究会　議事録

１　開催日時等：2021年12月24日13:30～16:30

会　場：九州経済連合会　大会議室　＆　WEB（ZOOM）

参加者：会場21名＆WEB 28名（+事務局4名）

２　プログラム

　（１）リーダー挨拶（倉掛氏）

（２）趣旨説明「モクビル研究会について」（九経連　櫻木）

（３）講演「なぜ木造化か」（講師：福岡県建築士会 鮎川会長）

　　　　　　これまでの木造実績、木造の課題と対応策 等

　（４）パネルディスカッション

テーマ：「伸びゆく木造ビルの課題と対策」

パネラー：木造ビル構造標準モデル作成チーム 各県代表者等

コーディネーター：倉掛リーダー

（５）モクビル研究会活動方針決定（次回以降の実施内容）

３　決定・周知事項

次回より、テーマを決め各県代表が持ち回りで発表・意見交換をする形とする。また、腰原先生、安井代表に適宜アドバイスをいただいていく。

　　★「木造ビル構造標準モデル」の深化（次年度以降）

４　主なご意見・感想

・事前ミーティングでは各県チーム代表者から沢山意見が出た。こういう雰囲気が大事。

・研究会は九州全体の取り組みであり有難い。横で繋がり技術共有ができる。

・3F建てと4F建ての間に大きな障壁がある（コストや技術面等）。

・研究会の方向性がよくわからない（ＳＣＭの構築等含）。

・3F建てから進めるか、5F建て以上に進むのかという議論はあるが、まず3F建てで経験を積み、4F以上へ拡大していくほうがいい。

　　・木材は買い叩かれる。有効利用できれば良心的な価格で出せる。融通し合うのが大事。

　　・木は自然素材で、高品質を求めると欠陥率上がる。全部使う工夫が必要。

・木材価格を抑えるにはどうすべきか少し分かった。

・なぜ木造か？木の良さは一般の人には伝わりにくく、そしてコストで躓く。安ければ営業しやすい。

・設計コンペ前に木材が規格化されているとやり易い。初めて聞いた。これが広がったらいいと思う。

５　今後の対応の方向性（事務局所感）

・研究会では、3F建てから4F建てへと段階を踏んで取り組む。それと、9月の調査研究WGで別途決定していた2022年度からの「ＳＣＭ強化に資する取り組み」について、当研究会で課題を共有し進めた方が合理的であることから、これを含めて進める。

・大型ビルについては、大手建設会社等会員の知見を活用し、環境整備に取り組む。

・上記以外のビルは、容積割増しの適用がある「総合設計制度」の木造化に対する適用可能性の検討をすすめるため、所管する行政へ確認を行う。

以　上